



施策・事務事業マネジメントシート【令和8年度】

1 施策の基本情報(Plan)

施策名		18 都市農業の推進
目的	対象	農業者、農地、市民
	意図	安全でおいしい農産物を生産し、市民がそれを消費することができる農地を保全する 市民が農業とふれあい、都市農業への理解を深めることができる
施策の方向		市内農業者が農業を継続できるように支援し、新鮮な農産物の供給や農地の保全・活用を図るとともに、地産地消や農業体験など、多様な役割を有する都市農業を推進します。

2-1 施策全体の考察①（施策の目的、方向に対する考察）

施策の目的、方向に対する考察（PDCAサイクルにおけるCheck・Action）

・調布市農業の持続的な振興に関する具体的取組を総合的かつ計画的に推進し、あわせて良好な都市環境の形成に資することを目的として、令和2年3月に「調布市農業振興計画」を策定し、近年の都市農業における環境の変化や市内農業の実態を踏まえ、「いきいきとした農業経営」、「農のある地域づくり」、「農地の保全・活用」の3つの基本方針は保持しつつ、令和6年度に中間見直しを行い、計画を改定し、施策を推進している。

・各施策の効果については、農業経営の支援を実施したことにより、都市農業の安定的な継続につなげることができた。また、多様な農業体験の場づくりを実施したことにより、都市農業への理解を深めることができた。さらに、都市農地の保全・活用を実施したことにより、農地が持つ多面的な機能の向上につなげることができた。引き続き、都市農業の持続的な振興に取り組む。

2-2 施策全体の考察②（まちづくり指標の推移／考察）

まちづくり指標	単位	基準値 (基準年度)	実績値 (目標年度)			目標値	指標の推移	考察 (目標達成の要因、課題、目標達成に向けた今後の取組の方向等)
			(令和5年度)	(令和6年度)	(令和7年度)			
認定農業者の人数	人	59 令和3年度	71	74	76	70 令和8年度	◎	・計画期間内において、認定農業者数は増となり、目標を達成した。 ・今後、家族経営協定を促進することで、認定農業者数の増加を図る。
多様な農業体験の場の新規開設数	園	1 令和3年度	0	3	0	3 令和5～8年度の 4箇年累計	◎	・計画期間内において、市民農園2園と学童農園1園を新規開設し、目標を達成した。 ・農業体験の場の新規開設については、市内にバランスよく配置ができるよう検討していく。
貸借円滑化法の活用件数	件 (累計)	9 令和3年度	5	10	12	25 令和5～8年度の 4箇年累計	○	・計画期間内において、累計数が前年度より向上した。 ・J Aマインズと連携し、貸借円滑化法の更なる周知・活用を図る。

※ ◎：目標達成 ○：目標値を未達成（前年度より向上した） ▼：目標値を未達成（前年度より低下した） ⇒：目標値を未達成（前年度と同じ又は前年度数値未把握） -：数値未把握（調査未実施など）

3 施策を構成する基本計画事業等の取組実績／今後の方向

■18-1 いきいきとした農業経営

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
60	農業経営の支援	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・農業経営の安定と向上を目的として、農業者（26人）に対して農業用機械購入等の支援を実施した。 ・環境保全型農業の促進を目的として、農業者（108人）に対して有機質肥料の配付を実施した。 ・まちのにぎわいや生産者とのふれあいの場の創出を目的とする、「マルシェ ドゥ 調布」を、市制施行70周年記念イベントとして、6月と10月に開催した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・調布市農業振興計画に掲げた将来像の実現に向けて、計画に位置付けた取組の推進を図っていく。 ・今後も国・東京都及び市独自の補助制度などを活用しながら、認定農業者及び農業経営に意欲ある農業者に対する支援を引き続き行っていく。 ・都市農業振興基本法の基本的な方針を踏まえ、都市農業の振興と都市農地の保全を図るため、様々な事業を通じて農業経営を支援していく。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)			今後の取組の方向(Action)
①市民と農家とのふれあいを促進し、農家の生産意欲及び技術力の向上を図るため、「調布市農業まつり」を開催した。 ②電子化した農産物直売所マップの二次元コードをチラシや市ホームページに掲載することで、インターネット上で直売所の表示や目的の直売所までのルート案内機能の利用を促進する等、市内の農産物直売所の利用促進を図った。			①「調布市農業まつり」の農産物展示品評会で上位特賞受賞者へ贈呈するシールを作成することで、農家の生産意欲の向上と市民への受賞者の農産物のPRを図り、農業経営を支援する。 ②電子化した農産物直売所マップに写真を掲載するなど、市内の農産物直売所の利用促進を図る。

■18-2 農のある地域づくり

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
61	多様な農業体験の場づくり	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・農業体験の場の提供を目的として、農業体験ファーム（7農園）の運営を支援した。 ・野菜づくりを楽しみながら、農業に対する理解を深めることなどを目的として、市民農園（14農園）を管理運営した。 ・都市農業への理解促進を目的として、ふれあい体験農園を実施した。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・農業体験に対する市民ニーズが高いことなども踏まえ、引き続き、新たな農園を確保していくため、農家に対し農業体験ファーム事業の制度等を周知し、協力を得ていく。 ・市民の農業・農地への理解促進を図るために、市民農園事業、ふれあい体験農園事業を継続して実施していく。 ・学校における食育の取組を推進するため、学童農園事業を継続して実施していく。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)			今後の取組の方向(Action)

■18-3 農地の保全・活用

No	基本計画事業名	令和7年度取組実績(Check)	令和7年度の主要な取組説明(Do)	今後の方向	今後の取組の方向(Action)
62	【重点⑤】 都市農地の保全・活用	☒ 計画どおり ☐ 計画前倒し ☐ 計画遅れ	・未来に残す東京の農地プロジェクトを活用し、災害時協力井戸となる農業用井戸や生活環境に配慮した土留めフェンスを整備した農業者2人に対して補助を実施することで、農地が持つ多面的機能を向上した。 ・J Aマイنزと連携し、「都市農地の賃借の円滑化に関する法律」の活用を促進することにより、都市農地の保全・活用に取り組んだ。	☒ 現状継続 ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 財政面改善 ☐ 参加と協働改善	・今後も未来に残す東京の農地プロジェクトを活用し、防災や環境保全などの都市農地が持つ多面的機能をより一層発揮させるための施設整備など、農地保全に意欲的に取り組む農業者及び農業団体が行う農地保全の取組に対して、ソフト・ハード両面に対する支援を継続していく。 ・J Aマイنزと連携し、「都市農地の賃借の円滑化に関する法律」の更なる周知を図るほか、農業経営の支援や市民農園・農業体験ファーム等に取り組むことにより、効果的な都市農地の保全・活用につなげていく。

基本計画事業以外の主要な取組実績(Do)	今後の取組の方向(Action)

4 施策の推進、成果向上の視点（4つの視点）を踏まえた令和7年度の実績及び令和8年度の具体的な取組

デジタル技術の活用	共創のまちづくり
・農家の取組紹介について、希望する農家が運営するSNSへのリンクを市ホームページに掲載することで、デジタル技術を活用した支援に取り組んだ。【令和7年度】 ・デジタル化した農産物直売所マップを活用し、直売所の写真を掲載するなど、更なる農産物直売所の利用促進や、市内農産物のPR、地産地消の促進を図る。【令和8年度】	・市民農園や農業体験ファーム等、市民が農とふれあう機会を創出し、農のある地域づくりを推進した。【令和7年度】 ・市内農家と調布駅前商業施設との連携により「マルシェ ドゥ 調布」を開催し、まちのにぎわいや農家とのふれあいの場の創出に取り組む。【令和8年度】
脱炭素社会の実現	フェーズフリー
・脱炭素社会の実現のため、希望する販売農家に対して、環境に優しい有機質肥料を配付し、環境の保全と新鮮で安全安心な農産物の生産・供給に対して支援した。【令和7年度】 ・脱炭素社会実現の観点から、化学合成農薬と化学肥料を削減した農産物を東京都が認証する制度である東京都エコ農産物認証制度等の認証を農業者が取得することを促進する。【令和8年度】	・未来に残す東京の農地プロジェクトを活用し、災害時協力井戸となる農業用井戸や生活環境に配慮した土留めフェンスの整備に対して補助を実施することで、農地が持つ多面的機能を向上した。【令和7年度】 ・災害時の防災空間の確保や延焼の防止等、農地の持つ防災機能を発揮するため、都市農地の保全に努める。【令和8年度】